

将来像設定の考え方

都民一人一人の行動が、「都内外の生物多様性**保全に貢献する**」だけでなく、「**生活の豊かさに繋がる**」ことを具体化

2050年将来像を分かりやすく示すことで、メッセージの理解促進を図る

都内外から生物多様性の恵みを受けていることを理解し、将来にわたり持続的に享受できるよう、「**社会全体の将来像**」として、**生物多様性と生活のつながりを生態系サービスごとに整理**

生物多様性と生活のつながりを知り、身近な行動につなげられるよう、「**地形区分ごとの将来像**」として、**各地形における具体的な取組や自然との関連性を整理**

社会全体の将来像

1 豊かな自然が残り生きものと共生する都市【基盤】

✓都心では生態系に配慮した緑地があふれ、郊外では**今ある自然が維持・回復**することで、**在来の生きものが戻るとともに、自然と共生する生活空間や職場環境が実現**し、自然を基軸とする環境先進都市となっている。

【キーワード】緑の質、在来の生きもの・外来種

2 都内外の自然資源を持続的に利用する都市【供給】

✓東京産の農産物・林産物・畜産物・水産物が地産地消による東京ブランドとして持続的に消費され、農地や山林など**東京の自然が持続的に利用**されるとともに、都外からの食料や商品・材料の購入にあたっては、持続可能なサプライチェーンによる商品が普及するなど**環境負荷の低い経済活動が成立**している。

【キーワード】都内産の消費拡大、大消費地としての責任、サプライチェーン、エコラベル

3 自然の恵みにより生活を豊かにする都市【文化】

✓コロナ禍における癒しや潤いをもたらす貴重な屋外空間、子どもの自然体験活動や保全活動の場、地域の観光資源として**都心の緑地や郊外の自然地が持続的に利用**され、**生活を豊かにするものとして、東京の自然の価値が見直**されている。

【キーワード】コロナ、環境教育、持続的な利用、生活を豊かにする保全活動、バイオフィリック・デザイン

4 自然の機能を発揮するレジリエントな都市【調整】

✓緑地によるヒートアイランド現象の緩和や雨水浸透・雨水貯留などによる洪水被害の軽減など、**自然が有する機能が十分に発揮したレジリエントな都市づくり**が進んでいる。

【キーワード】グリーンインフラ、台地部の雨水浸透、Eco-DRR

地形区分

ごとの将来像

山地

丘陵地

台地

低地

島しょ